

NO.4
近畿地方整備局
事業評価監視委員会
(平成18年度第1回)

一般国道42号

なちかつうら
那智勝浦道路

平成18年10月

国土交通省 近畿地方整備局

目次

●事業の目的	1
●計画の概要	2
●事業の経緯及び進捗	3
●事業を取り巻く社会状況	5
1．社会的背景	5
2．沿線の主な観光資源	8
3．沿線の交通状況	10
4．地域における計画	13
●事業の整備効果	15
●費用便益分析の結果	19
●コスト縮減や代替案立案等の可能性	21
●対応と方針	22

事業の目的

- ・新宮市、那智勝浦町における交通混雑の緩和
- ・基幹病院、貿易港へのアクセス向上
- ・沿線地域の活性化
- ・東南海・南海地震時の代替機能確保

一般国道42号は静岡県浜松を起点とし、紀伊半島沿岸部の主要都市を連絡しながら和歌山県和歌山市に至る約470kmの紀伊半島唯一の主要幹線道路です。五條新宮道路、近畿自動車道紀勢線と連携し、広域ネットワークを形成し、地域間の広域的、一体的な社会的・経済的な発展を促進します。

紀伊半島沿岸の交通は、一般国道42号とJR紀勢線本線に依存しており、そのため生活、産業、観光等に供する道路として多くの機能が要求されます。

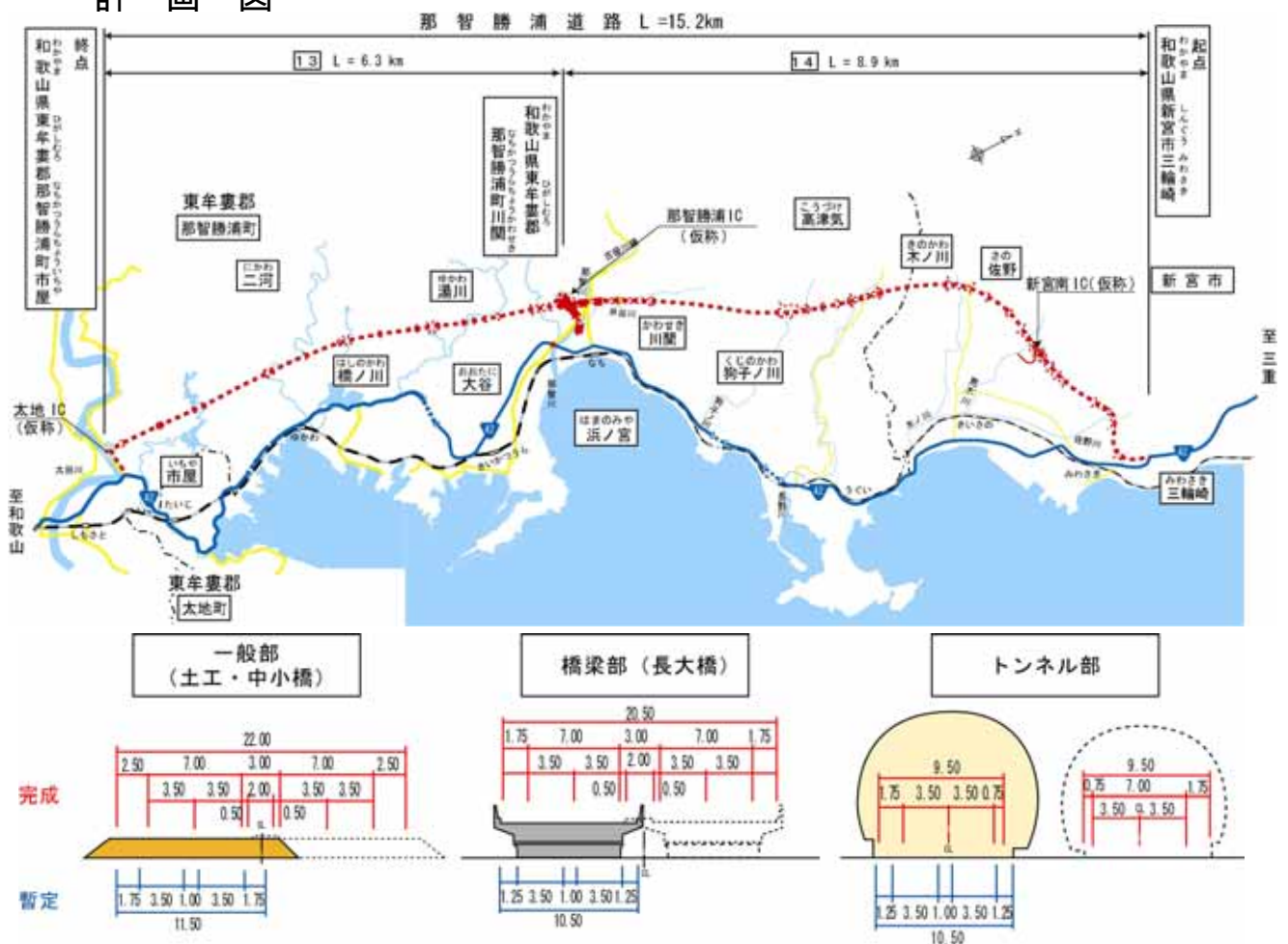
沿線的那智勝浦町は、隣接する新宮市との結びつきが強く、朝夕の通勤時間帯には渋滞が発生しています。また、那智勝浦町は日本有数の温泉地でもあり、休日や夏期になるとより一層の混雑を招いています。

那智勝浦道路は、このような交通需要の増大に対応し、渋滞緩和による交通の円滑化、貿易港へのアクセス向上、沿線地域の活性化、東南海・南海地震時の代替機能確保を主な目的として、平成4年度に14工区が事業化され、さらに、平成18年度には13工区が事業化されました。



計 画 の 概 要

- | | |
|--------|---|
| ・起 終 点 | 自) 和歌山県新宮市三輪崎
しんぐう みわさき
ひがしむろ なちかつうらちょう いちや
至) 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町市屋 |
| ・計画延長 | L = 15.2 km |
| ・幅 員 | W = 22.0 m (完成)
W = 10.5 m ~ 11.5 m (暫定) |
| ・構造規格 | 第1種3級 |
| ・設計速度 | 80 km / h |
| ・車 線 数 | 4車線 (完成) 2車線 (暫定) |
| ・全体事業費 | 約1,240億円 (完成) 約810億円 (暫定) |
| ・計 画 図 | |



事業の経緯及び進捗

1. 事業の経緯

- ・都市計画決定 : 平成2年12月
- ・事業化 : 14工区 : 平成4年度
13工区 : 平成18年度
- ・用地着手 : 14工区 : 平成8年度
- ・工事着手 : 14工区 : 平成10年度

2. 事業の進捗（平成17年度末現在）

- ・事業進捗率 : 40%（暫定60%）
- ・用地取得率 : 75%（面積ベース）

3. 関係機関との調整等

14工区は平成4年から事業を進めてきましたが、相続人が800人以上となる箇所があるなど用地の任意買収が困難な案件があり、用地買収に時間を要しました。そのため、土地収用法に基づく手続きを進め、現在は用地買収を完了しました。13工区については、今年度新たに事業化しました。

今年度は引き続き14工区の工事を推進し、平成19年度の暫定供用(2車線)を目指します。13工区については、今年度は関係機関協議及び測量・地質調査を実施します。

現在の状況（平成18年7月撮影）



川関地区



みわさき 三輪崎地区

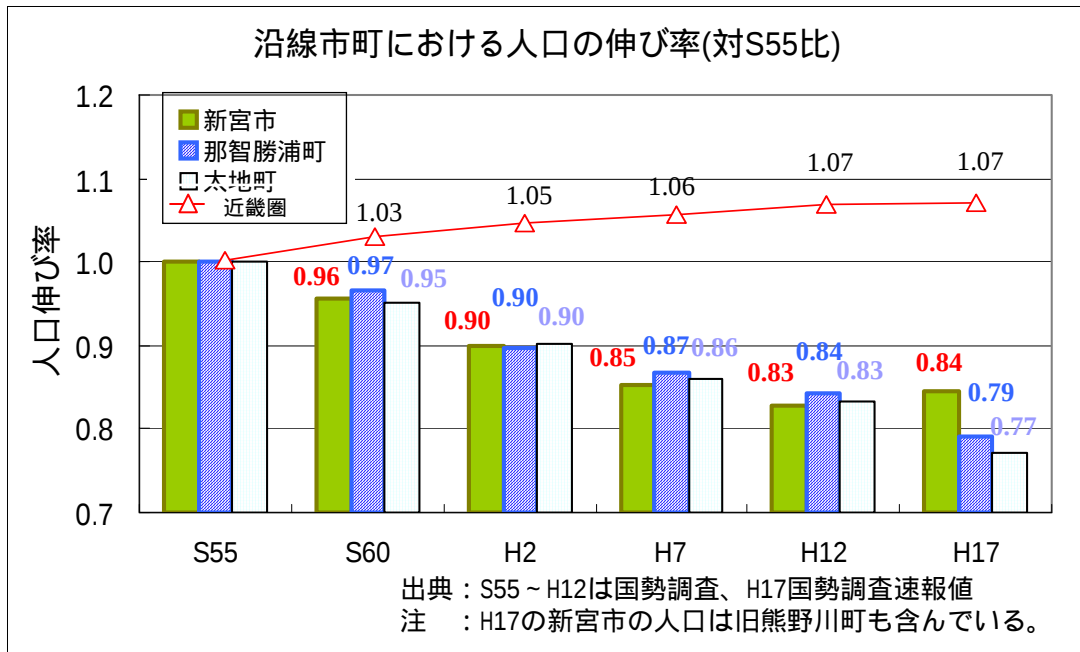


事業を取り巻く社会状況

1. 社会的背景

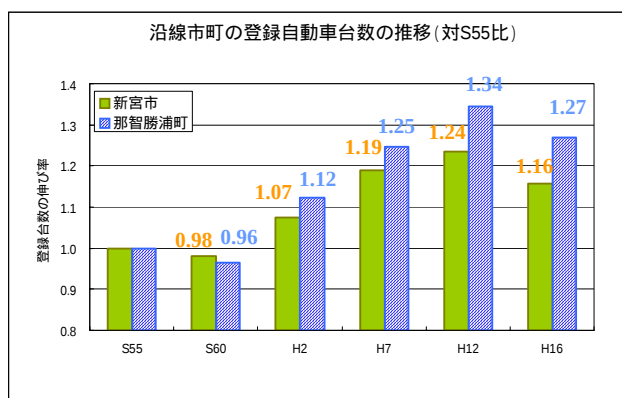
【沿線市町の人口推移】

那智勝浦道路沿線の新宮市、那智勝浦町及び太地町の人口は減少傾向にあり、地域の活性化が求められています。

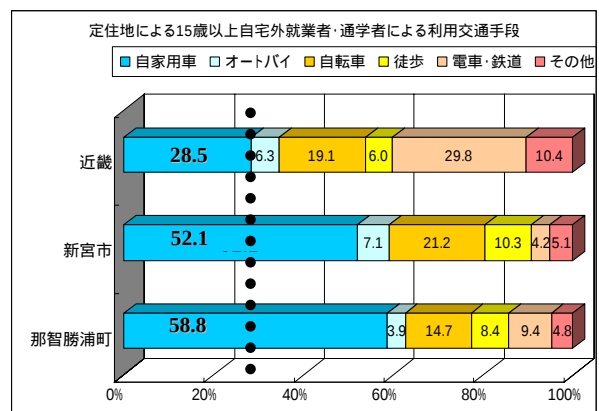


【沿線市町の登録自動車台数の推移】

沿線市町の登録自動車台数の伸び率は近年停滞傾向にありますが、依然この地域の自動車への依存度が高いことを示しています。



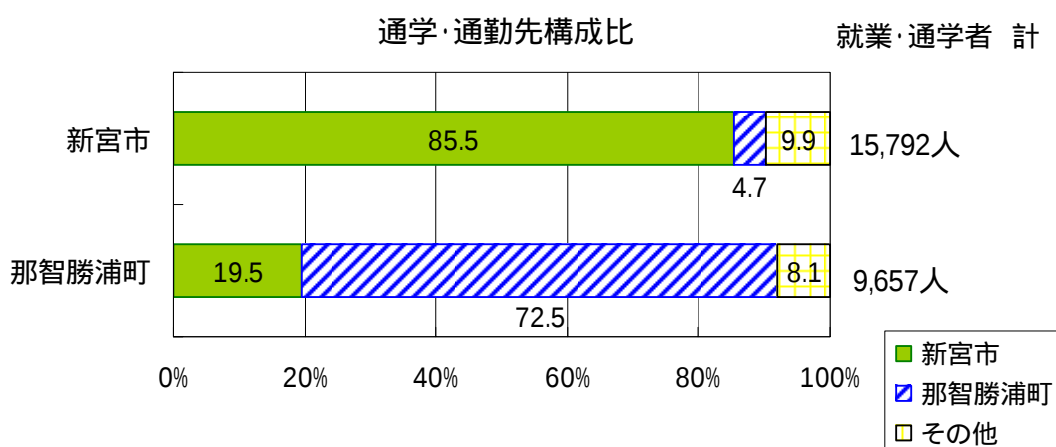
出典：近畿運輸局和歌山陸運支局資料



出典：平成12年度国勢調査

【沿線市町村の通勤・通学流動】

新宮市・那智勝浦町ともに内々への通勤・通学が多いですが、両市町間の結びつきも強く、那智勝浦町における就業者・通学者の5人に1人が新宮市に通勤・通学しています。

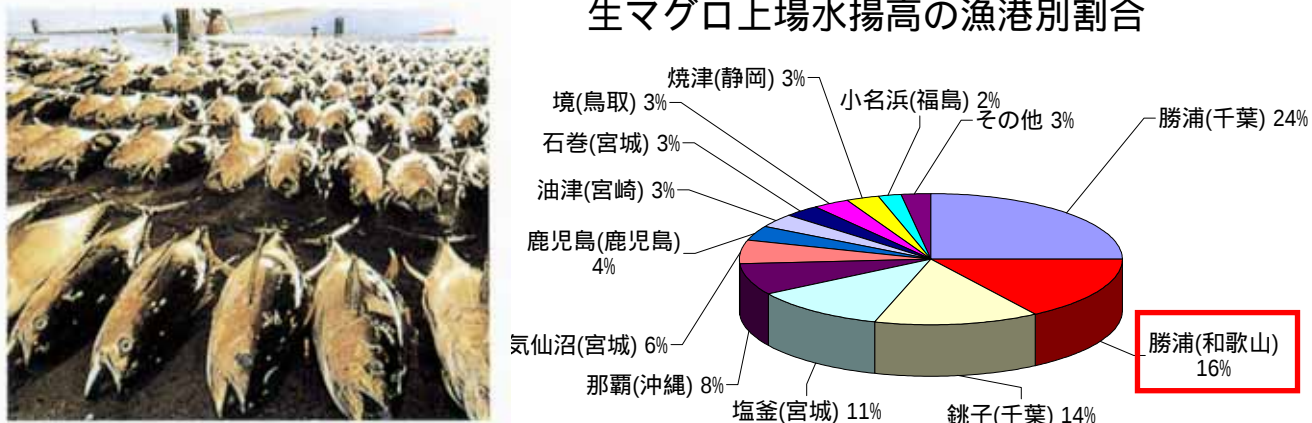


出典：平成12年度国勢調査

【地域産業の状況】

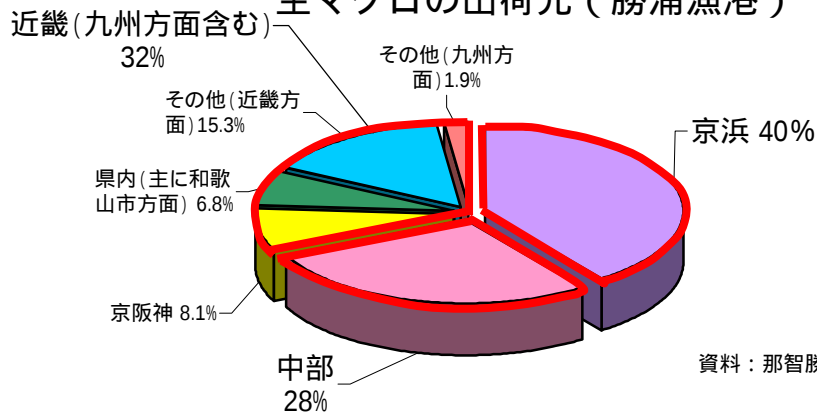
勝浦漁港の生マグロの水揚げ高は日本第2位です。そのうち約68%は名古屋・京浜方面に出荷されています。

生マグロ上場水揚高の漁港別割合

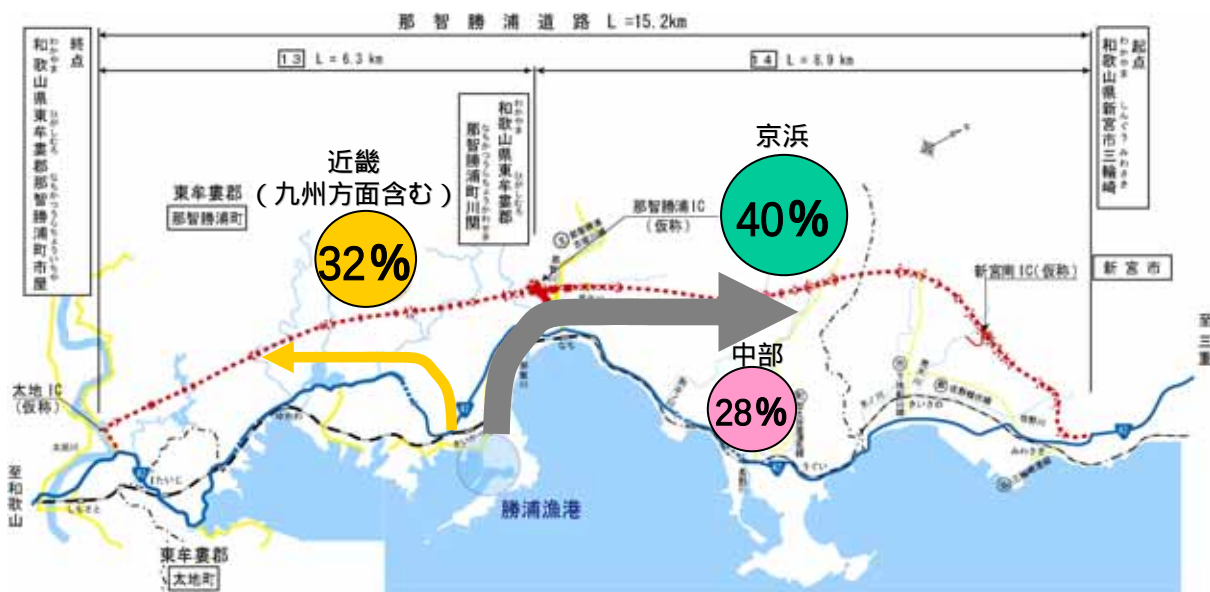


資料：水産物流通統計年報(平成16年)

生マグロの出荷先（勝浦漁港）



資料：那智勝浦町調べ(平成14年)



2. 沿線の主な観光資源

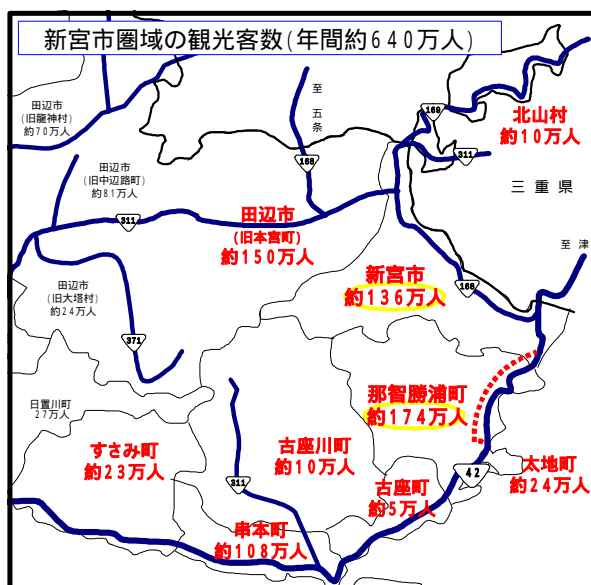
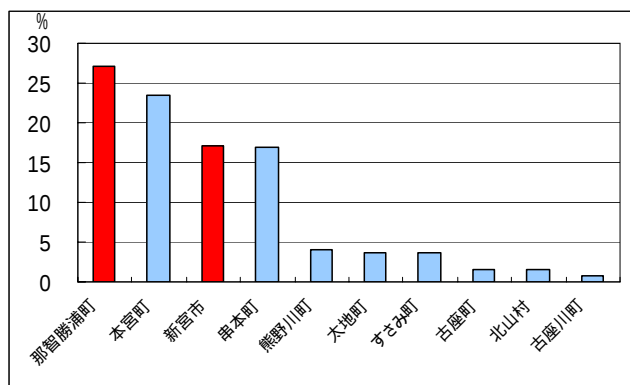
【紀伊半島東部（新宮圏域）で最も多くの観光客が訪れる】

新宮圏域に訪れる観光客（年間約640万人）のうち那智勝浦町に訪れる観光客（年間約174万人）は、最も多く約27%を占め、新宮市を含めると約50%になります。

那智勝浦町に訪れる観光客は四季を通して同じ割合ですが、夏場は海水浴客が多く訪れるため、年間を通して最も多くなっています。

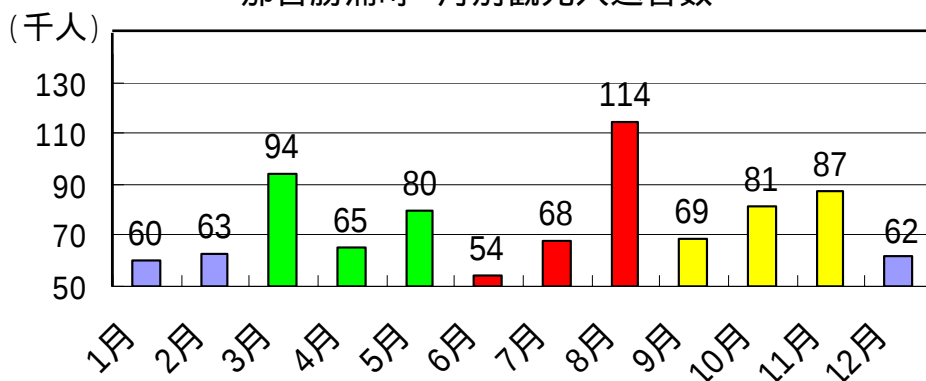
この地域を通る国道42号は、観光交通が多いため、荒坂津神社前交差点、汐入橋交差点の主要渋滞ポイントが交通のボトルネックになっています。

新宮圏域に訪れる観光客の割合(平成17年度)



新宮圏域に訪れる観光客の内
約50%が
那智勝浦町と新宮市に訪れる。

那智勝浦町 月別観光入込客数



出典: H17和歌山県観光客動態調査報告書

和歌山県那智勝浦町は、紀伊半島の南東部にある神話の里、黒潮と緑の町です。東部は熊野灘に面し、北部から南部にかけては豊かな水源と森林をはぐくむ那智の山々が連なっています。

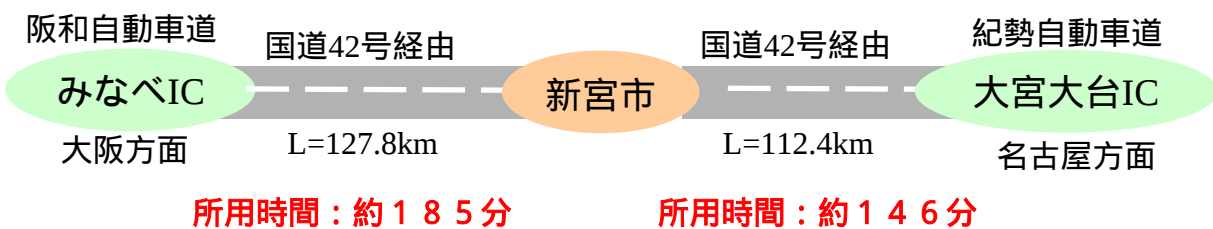
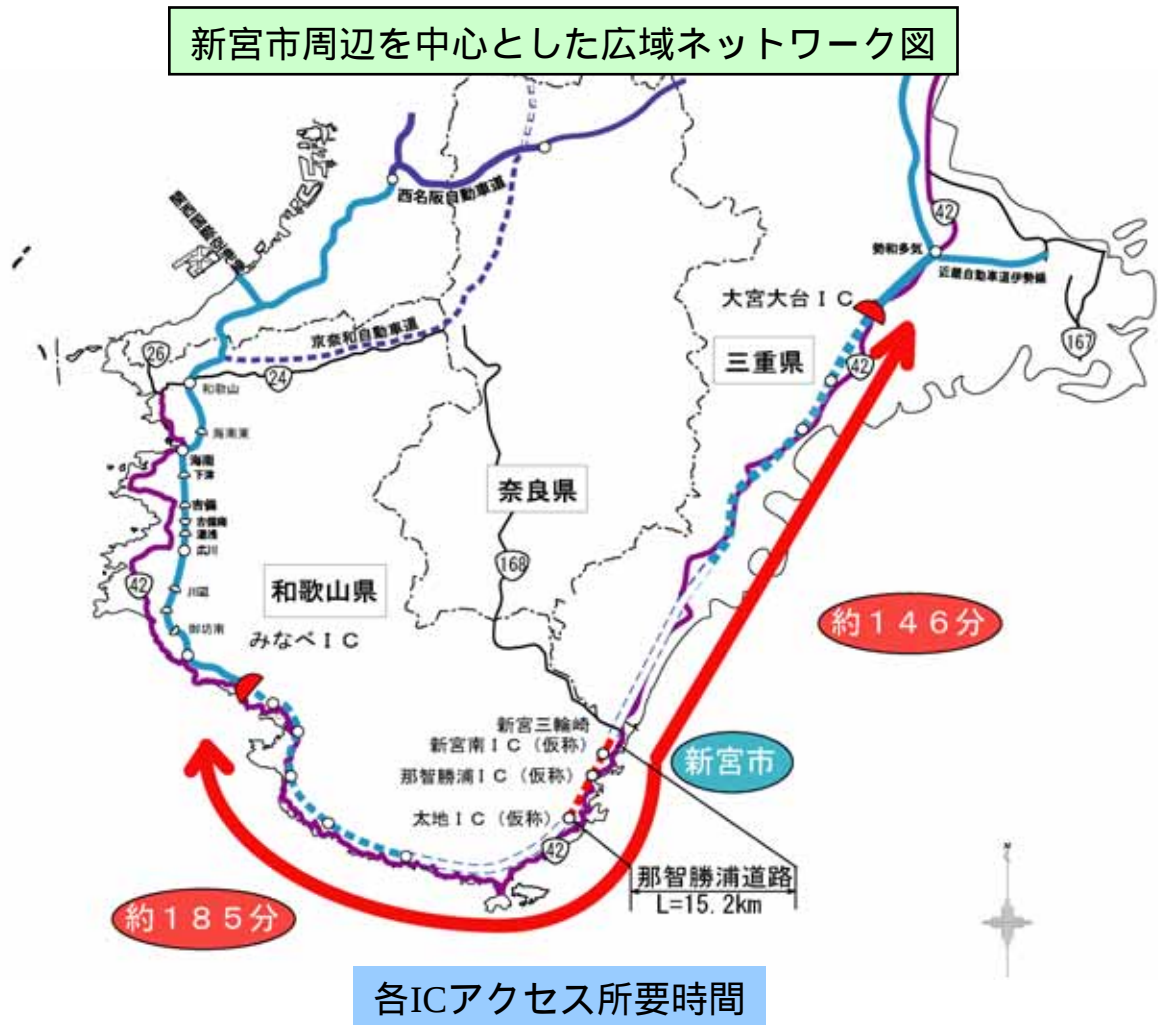
名所は「紀の松島」、雄大な「那智の滝」をはじめ「熊野那智大社」、「熊野古道」、西国三十三カ所の第一番礼所「青岸渡寺」、H16年7月には、「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界遺産登録もあり、自然と歴史の訪問に全国から観光客が集まります。



3. 沿線の交通状況

【現道の交通状況】

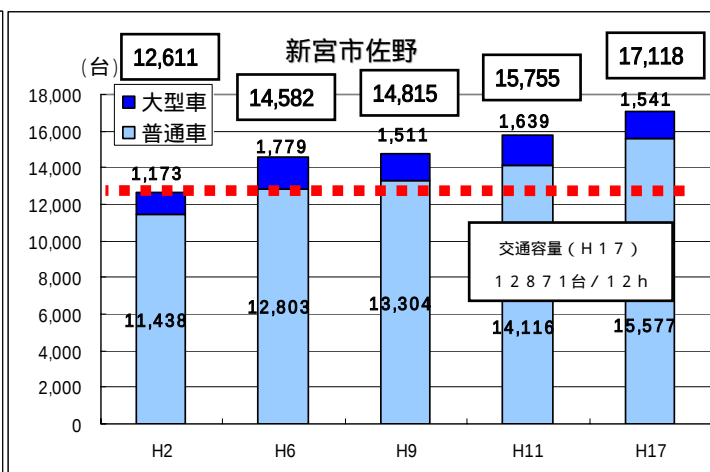
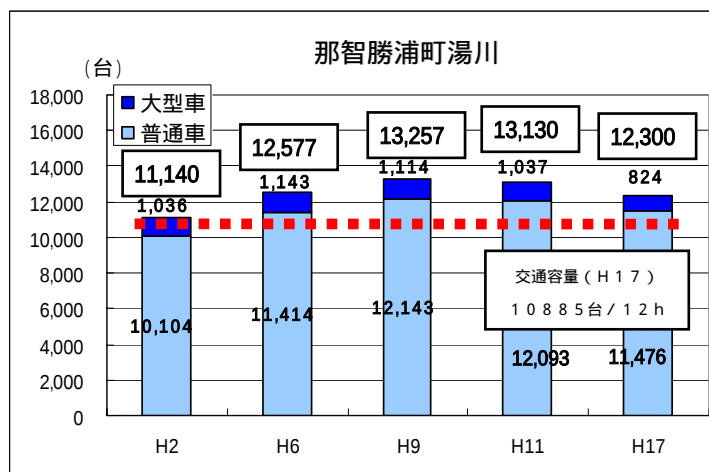
新宮市の広域道路は、国道42号と国道168号のみで、高速道路の最寄りの各ICまでは、140分以上の時間を要しています。



各IC所用時間は、H17道路交通センサス旅行速度を基に算出

【国道42号の交通量】

新宮市と那智勝浦町を結ぶ主要幹線道路は国道４２号のみであり、近年の平日１２時間交通量の推移は新宮市で増加傾向、那智勝浦町では平成９年をピークに減少傾向にあります。但し、新宮市・那智勝浦町においては、交通量が容量を上回っています。



出典：交通センサス・交通量調査

【国道42号周辺の渋滞状況】

あらさかつ じんじゃまえ
新宮市の荒坂津神社前交差点、那智勝浦町の汐入橋交差点において慢性的な渋滞が発生しています。



汐入橋交差点

あらさかつ じんじゃまえ
荒坂津神社前交差点



写 汐入橋交差点付近



写 荒坂津神社前交差点付近



4．地域における計画

那智勝浦道路は、下記の計画に位置づけられています。

- ・和歌山県長期総合計画（平成10年2月）
広域的な交流と連携を支える交通網の整備のため、高規格幹線道路である近畿自動車道紀勢線の整備を促進します。
- ・第3次新宮市総合計画（平成8年3月）
広域道路網の整備において、国道42号のバイパス機能を有し、高規格幹線道路でもある那智勝浦道路の整備を積極的に支援。
- ・那智勝浦町長期総合計画基本構想（平成18年3月）
広域交通網の整備において、那智勝浦道路の早期完成を促進。

要望経緯

- ・平成4年10月
一般国道42号那智勝浦・新宮道路建設促進協議会設立

期成同盟会	会長	主な構成メンバー	対象道路
一般国道42号 那智勝浦・新宮 建設促進協議会	新宮市長	新宮市 那智勝浦町	那智勝浦道路

(最近の動向)

- ・ 平成 1 7 年 1 月 近畿自動車道（熊野市～新宮市間）建設促進協議会が那智勝浦道路の早期完成を要望
- ・ 平成 1 7 年 7 月 新宮周辺広域市町村圏事務組合が、関係各機関に整備促進の要望書を提出
- ・ 平成 1 7 年 7 月 新宮市 平成 1 8 年度政府予算に関する要望書を提出
- ・ 平成 1 7 年 7 月 一般国道 4 2 号那智勝浦・新宮道路建設促進協議会が、関係各機関に整備促進の要望書を提出
- ・ 平成 1 7 年 1 1 月 国道 4 2 号（田辺～新宮）改良促進協議会が、関係各機関に整備促進の要望書を提出
- ・ 平成 1 8 年 7 月 新宮周辺広域市町村圏事務組合が、関係各機関に整備促進の要望書を提出
- ・ 平成 1 8 年 7 月 新宮市 平成 1 9 年度政府予算に関する要望書を提出
- ・ 平成 1 8 年 8 月 和歌山県高規格幹線道路建設促進委員会が、各関係機関に整備促進の要望書を提出

事業の整備効果

●沿線における交通の円滑化

那智勝浦道路の完成により、現在の42号を通過している交通が、那智勝浦道路に転換すると考えられ、主要渋滞ポイントにもあげられている国道42号の荒坂津神社前交差点および汐入橋交差点の渋滞が解消され、交通の円滑化が期待されます。

また、那智勝浦町は県内での有数の観光地であることから、休日や観光シーズンに発生する渋滞に対しても緩和して、円滑な通行が期待されます。

太地町役場から新宮市役所までの所要時間



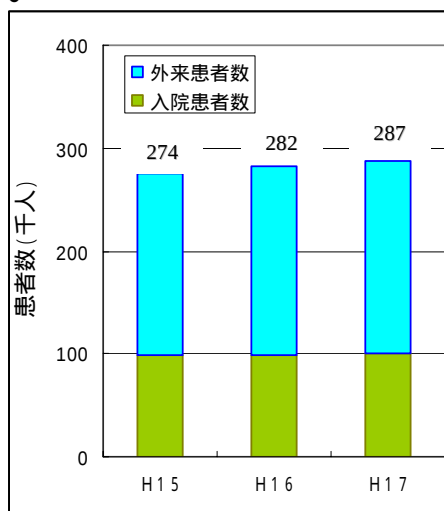
現道はH17道路交通センサス旅行速度を基に算出
バイパスは80km/hとして算出

● 基幹病院へのアクセス向上

新宮市立医療センターは、新宮保険医療圏域（新宮市から串本町）の基幹病院として設置され、年間の入院患者は約10万人、外来患者は約18万人の利用があり、年々増加傾向にあります。その利用者の約5割の人が那智勝浦道路を利用すると考えられます（那智勝浦町・太地町・串本町・古座川町）。そのため、那智勝浦道路の整備は、移動時間の大幅な時間短縮と定時性を確保し、多くの人の救命率の向上に大きく貢献します。



紀伊半島東部の二次医療を担っている新宮市立医療センター
(平成13年5月 新宮市蜂伏に開院)



新宮市立医療センターへの年間外来患者数



(新宮市立医療センター調べ)

医療センターまでのアクセス所要時間

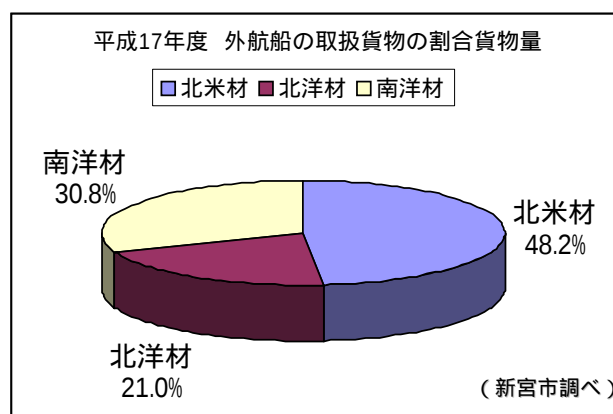
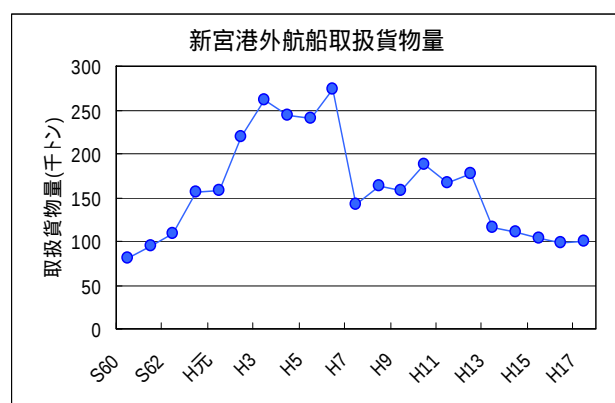


● 貿易港へのアクセス向上

新宮港は、紀伊半島南部に立地する唯一の外国貿易港であり、この港湾機能を有効的に活用する上で、交通アクセスは重要な課題となっています。那智勝浦道路を含む紀勢線の整備は、新宮港へのアクセスを強化し、地域経済の発展や物資の輸送の効率化に寄与します。



紀南振興の重要な拠点である
新宮港港湾整備



木材の輸入元は、北米材はカナダ、
北洋材はロシア、南洋材はソロモン諸島

●沿線地域の活性化

新宮圏域は年間640万人の人が観光に訪れています。新宮市や那智勝浦町には、平成16年7月に「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録されたことに加え、観光資源を多く有する地域特性があります。那智勝浦道路の整備により、観光スポットは短時間で結ばれ、多様な特性を持った一大観光エリアが形成されるため、観光客の増加が期待されます。

東南海・南海地震の発生から数分後には、広域に巨大な津波が来襲し、紀伊半島では最大9.5mに達すると予想されています（中央防災会議予測）。そこで、那智浦道路は、「命の道」として、想定津波高さより高い位置を通過する道路として、代替機能を確保させる役割を果たします。



注：津波到達範囲は和歌山県作成の津波浸水予想図をもとに作成しているが、実際の到達範囲はこれとは異なる可能性があることに留意されたい。

津波浸水イメージは和歌山県総合防災課HPより

津波浸水イメージは和歌山県総合防災課HPより

費用便益分析の結果（事業全体）

路線名	一般国道42号
事業名	那智勝浦道路
延長	L = 15.2m

□ 便益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合計
基準年	平成18年度			
基準年における現在価値	1,677 億円	121 億円	49 億円	1,847 億円

・・・（B）

□ 費用

	事業費	維持管理費	合計
基準年	平成18年度		
単純合計	1,183億円	164億円	1,350億円
基準年における現在価値	1,157億円	57億円	1,210億円

・・・（C）

□ 算定結果

費用便益（B / C）	
B / C	$= \frac{\text{便益の現在価値の合計（B）}}{\text{費用の現在価値の合計（C）}} = \frac{1,847 \text{ 億円}}{1,210 \text{ 億円}}$ $= 1.5$

費用便益分析の結果（残事業のみ）

路線名	一般国道42号
事業名	那智勝浦道路
延長	L = 15.2m

□ 便益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合計
基準年	平成18年度			
基準年における現在価値	1,677 億円	121 億円	49 億円	1,847 億円

□ 費用

	事業費	維持管理費	合計
基準年	平成18年度		
単純合計	649億円	164億円	813億円
基準年における現在価値	525億円	57億円	582億円

・・・（C）

□ 算定結果

費用便益（B / C）	
B / C	$= \frac{\text{便益の現在価値の合計（B）}}{\text{費用の現在価値の合計（C）}} = \frac{1,847 \text{ 億円}}{582 \text{ 億円}}$ $= 3.2$

コスト縮減や代替案立案等の可能性

本道路の計画にあたっては、地形、周辺の土地利用状況、主要幹線道路等との接続、経済性等を勘案のうえ最適ルート及び道路構造を選定していることから、周辺の環境や景観の保全を図りながら、引き続き現計画に基づき事業を推進します。

なお、施工にあたって建設発生土の有効利用、新技術・新工法の積極的な活用などによりコスト縮減に努めています。

対 応 方 針

(1) 事業の必要性等に関する視点からの見解

那智勝浦道路の沿線地域では、日常生活で車による移動が大半を占めているために年々、朝夕の通勤による慢性的な渋滞・混雑が生じている状況です。また、沿線地域は県内有数の観光地であるため夏期や休日等になると渋滞に拍車をかけ日常生活にも支障をきたしている状況で、さらに東南海・南海地震時の代替路の機能確保が必要であり、基幹病院である「新宮市立医療センター」や、紀伊半島南部における唯一の外国貿易港である「新宮港」へのアクセス向上といった目的から、那智勝浦道路沿線の地元から早期の完成が望まれています。

那智勝浦道路は、近畿自動車道紀勢線に並行する一般国道42号において、高規格な道路としての機能をもたせ、その機能を活用することを目的として、現在2車線（暫定）の整備を進めており、費用対効果は高い数値（全体B / C = 1.5）になっています。

(2) 事業の進捗の見込みの視点からの見解

14工区においては、H17年度末現在で用地買収は完了し、工事を鋭意推進しており、L=8.9km区間全線において平成19年度暫定供用を目指します。13工区においては、18年度より事業化しており、今年度は関係機関協議と測量・地質調査を進めていきます。

(3) コスト縮減や代替案立案等の可能性による視点からの見解

本道路の計画にあたっては、地形、周辺の土地利用状況、主要幹線道路等との接続、経済性等を勘案のうえ最適ルート及び道路構造を選定していることから、周辺の環境や景観の保全を図りながら、引き続き現計画に基づき事業を推進します。

なお、施工にあたって建設発生土の有効利用、新技術・新工法の積極的な活用などによりコスト縮減に努めています。

具体例としては、14工区における工事において、鋼橋の少本数主桁化した構造を採用し、建設コストを縮減しました。

対応方針（原案）

【事業継続】

那智勝浦道路は地域の発展を支える役割だけでなく、紀伊半島沿岸部における唯一の主要幹線道路となり、慢性的な朝夕の通勤交通による渋滞や休日、観光シーズンにおける渋滞の緩和、さらには、東南海・南海地震時の代替機能確保、基幹病院である「新宮市立医療センター」と紀伊半島南部における唯一の外国貿易港である「新宮港」へのアクセス向上といった、多くの目的から早期の供用が求められています。

今後とも、引き続き事業を推進し、平成19年度の部分供用を目指します。

チェックリスト

事業再評価に係わる資料

事業名		一般国道42号 なちかつうらどうろ 那智勝浦道路		事業種別	一般国道 (二次改築)
事業の概要	起 終 点	自:和歌山県新宮市三輪崎 至:和歌山県東牟婁郡那智勝浦町市屋		延 長	L = 15.2 km
	事業化	平成4年度(14工区) 平成18年度(13工区)	都市計画決定	平成2年度	
	用地着手	平成8年度	工事着手	平成10年度	
	全体事業費	約1240億円			
事業	那智勝浦道路は、一般国道42号の和歌山県新宮市から同県東牟婁郡那智勝浦町間における、渋滞緩和による交通の円滑化、貿易港へのアクセス向上、沿線地域の活性化、東南海・南海地震時の代替機能確保を主な目的とした、延長15.2kmの自動車専用道路である。平成4年度に14工区、平成18年度に13工区が事業化され、将来は近畿自動車道紀勢線の一部となり、高規格な道路としての機能をも備えた道路とされています。				
位置図					

事業名		一般国道42号 なちかつうらどうろ 那智勝浦道路	事業種別	一般国道 (二次改築)
事業の進捗状況	執行済み額	事業費：約490億円（進捗率40%）		
	事業の進捗状況			
	終点 和歌山県東牟婁郡那智勝浦町市屋 わかやま ひがしむらなちかつうらちよういちや 13 L = 6.3 km 14 L = 8.9 km 起点 和歌山県新宮市三輪崎 わかやま しんぐう みわさき  東牟婁郡 那智勝浦町 太地 IC (仮称) 太田川 至和歌山 東牟婁郡 太地町 和歌山県東牟婁郡 那智勝浦町川関 わかやま ひがしむら なちかつうらちようかわせき 那智勝浦 IC (仮称) 那智川 古座川線 井谷川 海士川 長野川 新宮市 新宮南 IC (仮称) 荒木川 木ノ川 佐野川 至三重 主要渋滞ポイント 汐入橋交差点 主要渋滞ポイント あらきかつしんじやまえ 荒坂津神社前交差点			
	進捗状況		・都市計画決定 :平成2年12月 ・事業化 :平成4年度(14工区) 平成18年度(13工区) ・用地着手 :平成8年度(14工区) ・工事着手 :平成10年度(14工区) 【調査・設計・施工】 ・用地については、事業対象面積の約75%が用地買収完了。(14工区は全て買収済) ・13工区については、今年度から測量・地質調査を実施。	
状況	供用目標等今後の事業の見通し			
	今後とも、引き続き事業を推進し、早期完成供用を目指す。			

事業名		一般国道42号 なちかつうらどうろ 那智勝浦道路		事業種別	一般国道 (二次改築)
事業を巡る社会情勢等の変化	客観的評価指標				
	1. 活力	円滑なモビリティの確保	● 現道等の年間渋滞損失時間(人・時間)及び削減率。		
			□ 現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される。		
			□ 現道又は並行区間等における踏切交通遮断量が10,000台時/日以上、踏切道の除却もしくは、交通改善が期待される。		
			■ 現道等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する。		
			■ 新幹線駅もしくは特急停車駅へのアクセス向上が見込まれる。		
			□ 第一種、第二種、第三種空港もしくは共用飛行場へのアクセス向上が見込まれる。		
		物流効率化の支援	□ 重要港湾もしくは特定重要港湾へのアクセス向上が見込まれる。		
			■ 農林水産省を主体とする地域において農林水産品の流通の利便性向上が見込まれる。		
			□ 現道等における、総重量25tの車両もしくはISO規格背高海上コンテナ輸送車が通行できない区間を解消する。		
		都市の再生	□ 都市再生プロジェクトを支援する事業である。		
			■ 広域道路整備基本計画に位置づけのある環状道路を形成する。		
			□ 市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携あり。		
			□ 中心市街地内で行う事業である。		
			□ 幹線都市計画道路網密度が1.5km/km2以下である市街地内での事業である。		
			□ DID区域内の都市計画道路整備であり、市街地の都市計画道路網密度が向上する。		
		国土・地域ネットワークの構築	■ 対象区間が現在連絡道路がない住宅宅地開発(300戸以上又は16ha以上、大都市においては100戸以上又は5ha以上)への連絡道路となる。		
			■ 高速自動車国道と並行する自専道(A'路線)の位置づけあり。		
			□ 地域高規格道路の位置づけあり。		
	■ 当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する。(A'路線としての位置づけがある場合)				
	■ 当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する。				
	□ 現道等における交通不能期間を解消する。				
	□ 現道等における大型車のすれ違い困難区間を解消する。				
	■ 日常活動圏中心都市へのアクセス向上が見込まれる。				

事業名		一般国道42号 なちかつうらどうろ 那智勝浦道路	事業種別	一般国道 (二次改築)
事業を巡る社会情勢等の変化	客観的評価指標			
		個性ある地域の形成	☐ 鉄道や河川等により一体的発展が阻害されている地区を解消する。	
			☐ 拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクト、大規模イベントを支援する。	
			■ 主要な観光地へのアクセス向上が期待される。	
			■ 新規整備の公共公益施設へ直結する道路である。	
	2. 暮らし	歩行者・自転車のための生活空間の形成	☐ 自転車交通量が500台/日以上、自動車交通量が1,000台/12h以上、歩行者交通量が500人/日以上全ての全てに該当する区間において、自転車利用空間を整備することにより、当該区間の歩行者・自転車の通行の快適・安全性の向上が期待できる。	
			☐ 交通バリアフリー法に基づく重点整備地区における特定経路を形成する区間が新たにバリアフリー化される。	
		無電柱化による美しい町並みの形成	☐ 対象区間が電線類地中化5ヶ年計画に位置づけあり。	
			☐ 市街地又は歴史景観地区(歴史的風土特別保存区域及び重要伝統的建造物保存地区)等の幹線道路において新たに無電柱化を達成する。	
		安全で安心できるくらしの確保	☐ 三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる。	
	3. 安全	安全な生活環境の確保	☐ 現道等に死傷事故率が500件/億台キロ以上である区間が存する場合において、交通量の減少、歩道の設置又は線形不良区間の解消等により、該当区間の安全性の向上が期待できる。	
			☐ 該当区間の自動車交通量が1,000台/12h以上(該当区間が通学路である場合は500台/12h以上)かつ歩行者交通量100人/日以上(該当区間が通学路である場合は学童、園児が40人/日以上)の場合、又は歩行者交通量500人/日以上の場合において、歩道が無い又は狭小な区間に歩道が設置される。	
		災害への備え	■ 近隣市へのルートが1つしかなく、災害による1～2箇所の道路寸断で孤立化する集落を解消する。	
			■ 対象区間が、都道府県地域防災計画、緊急輸送道路ネットワーク計画又は地震対策緊急整備事業計画に位置づけがある、又は地震防災緊急事業5ヶ年計画に位置づけのある路線(以下「緊急輸送道路」という)として位置づけあり。	
			■ 緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する。	
			■ 並行する高速ネットワークの代替路線として機能する(A路線としての位置づけがある場合)。	
			☐ 現道等の防災点検又は震災点検要対策箇所もしくは架替の必要のある老朽橋梁における通行規制等が解消される。	
			☐ 現道等の事前通行規制区間、特殊通行規制区間又は冬期交通障害区間を解消する。	

事業名		一般国道42号 なちかつうらどうろ 那智勝浦道路		事業種別	一般国道 (二次改築)
事業を巡る社会情勢等の変化	客観的評価指標				
	4. 環境	地 球 環 境 の保全	● 対象道路の整備により削減される自動車からのCO2排出量。		
		生 活 環 境 の改善・保 全	● 現道等における自動車からのNO2排出削減率。		
			● 現道等における自動車からのSPM排出削減率。		
			☐ 現道等で騒音レベルが夜間要請限度を超過している区間について、新たに要請限度を下回ることが期待される区間がある。		
			☐ その他、環境や景観上の効果が期待される。		
	5. その他	他のプロジ ェクトとの 関係	■ 関連する大規模道路事業と一体的に整備する必要あり。		
			☐ 他機関との連携プログラムに位置づけられている。		
		その他	☐ その他、対象地域や事業に固有の事情等、以上の項目に属さない効果が期待される。		
	再評価実施時点における評価指標該当項目 (定量的評価指標)				
1. 活力～円滑なモビリティの確保～ ○ 現道等の年間渋滞損失時間(人・時間)及び削減 ・ 国道42号等の渋滞損失時間は3,299,005人・時間/年である。 ・ 当該事業により渋滞損失時間は446,680人・時間/年となり約8割削減される。 4. 環境～地球環境の保全～ ○ 対象道路の整備により削減される自動車からのCO2排出量 ・ 国道42号等のCO2排出量は149,653t/年である。 ・ 当該事業によりCO2排出量は132,193t/年で約1割削減される。 4. 環境～生活環境の改善・保全～ ○ 現道等における自動車からのNOx排出削減率 ・ 国道42号の現道区間のNO2排出量は145t/年である。 ・ 当該事業によりNO2排出量は71t/年となり、約5割削減される。 ○ 現道等における自動車からのSPM排出削減率 ・ 国道42号の現道区間のSPM排出量は14t/年である。 ・ 当該事業によりSPM排出量は7t/年となり、約5割削減される。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化					
平成16年7月に、「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録された。					

効事 果業 分採 析択 の時 要の 因費 の用 変対 化効 果	【事業全体】 ○現在の費用便益比： $B / C = 1.5$ （基準年次：平成18年、検討年次40年間で算出） 【残事業】 ○現在の費用便益比： $B / C = 3.2$ （基準年次：平成18年、検討年次40年間で算出）
立コ 案ス 等ト の縮 可減 能や 性代 替 案	本道路の計画にあたっては、地形、周辺の土地利用状況、主要幹線道路等との接続、経済性等を勘案のうえ最適ルート及び道路構造を選定していることから、周辺の環境や景観の保全を図りながら、引き続き現計画に基づき事業を推進する。 なお、施工にあたって建設発生土の有効利用、新技術・新工法の積極的な活用などによりコスト縮減に努めている。 具体例としては、14工区における工事において、鋼橋の少本数主桁化した構造を採用し、建設コストを縮減を図っている。
地 方 公 共 団 体 の 意 見	・平成18年7月 新宮周辺広域市町村圏事務組合が、関係各機関に整備促進の要望書を提出 ・平成18年7月 新宮市 平成19年度政府予算に関する要望書を提出 ・平成18年8月 和歌山県高規格幹線道路建設促進委員会が、各関係機関に整備促進の要望書を提出
対 応 方 針	○事務局案（事業継続） （理由） 那智勝浦道路は地域の発展を支える役割だけでなく、紀伊半島沿岸部における唯一の主要幹線道路となり、慢性的な朝夕の通勤交通による渋滞や休日、観光シーズンにおける渋滞の緩和、さらには、東南海・南海地震時の代替機能確保、基幹病院である「新宮市立医療センター」と紀伊半島南部における唯一の外国貿易港である「新宮港」へのアクセス向上といった、多くの目的から早期の供用が求められている。 今後とも、引き続き事業を推進し、平成19年度の部分供用を目指す。